

2025年2月3日

最近テレビで知ったのですが、今の子供たちが使用する鉛筆の硬さというか、濃さというか、それは2Bが主流になっているんですね。私が子供のころはHBだったんですね。だんだん2Bの使用が増えていって、2006年で逆転して、今や2Bが当たり前と。

そんなのどうでもいいじゃない、と思うかもしれませんが、その理由と背景を知ると少し怖ろしく感じます。

その理由は、子供たちの「筆圧の低下」なんですよ。そしてその背景にはパソコンやタブレットの普及があります。1995年の“Windows95”以降、一気にパソコンが普及し、2000年以降、スマートフォンやタブレットも登場しました。画面で見るが多くなり、書く機会が大きく減りました。

昔、小さい頃に「未来の人間の姿」のイラストを見たら、頭でっかちの手足が細くて小さい宇宙人のような形をしていました。「そんな形になるわけないやろー」と当時は思ってましたが、今は「もしかして、そうなっていく流れの中にあるのかもしれない」と思えてきました。

IT化、デジタル化、DXと進化していく中で、退化するのは人間の体力面だけではないんですよ。知識やスキルも退化していくリスクを抱えています。

例えば、漢字ですね。今はパソコン上で漢字変換が簡単にできるから、メールなんかでも漢字の使い方や意味を調べたり考えたりせず、変換された候補の漢字を適当に充てているために、間違いが散見されますよね。最近のネット記事でも漢字の間違いは多いですよ。漢字の力が落ちてきているように思います。

それから仕事においても、たとえば入力作業。システム化されていますから、入力したものが結果として反映されるわけですが、それがどういうロジックでまたどういう計算でその結果が導き出されたか、考えることなく、仕事が回っていきます。ですから、システムが急に止まった時に手計算でやれと言われても困りますよね。昔だったらできたけど・・・となります。

ITの進化、技術の進化、それに伴って人間の体力、知識、スキルが退化する可能性があるということですね。4月から大阪・関西万博が開催されますが、万博というのは進化を披露する場でもあります。

進化の一方で人間の退化とどう向き合っていくか。人類が考えていけない課題に感じました。

以上

代表取締役社長 角高哲治